

# 令和4年度 松本市立寿小学校 グランドデザイン

**長野県**  
教育課程・学習指導改善の目標  
○子供の多様性を包みこみ、「生きる力」を育む教育の推進  
・問いのある授業  
・みんなの教育課程  
・つながる学校

**学校長の願い**  
(伸ばしたい姿勢)  
・自ら取り組み、課題を見出し、粘り強く追究して、問題解決していく姿勢  
・互いの違いや良さを認め、相手を思いやり、共に力を合わせて取り組もうとする姿勢

**松本市教育大綱**  
「子どもが主人公 学都松本のシンカ」  
○一人ひとりの個性や能力を尊重した多様な学び  
○未来を切り拓き、新しい価値を生み出す創造的な学び  
○自己や他者と対話しながら、社会に参画する主体的な学び  
<重点>  
①誰一人取り残すことのないシステムの構築  
②子どもにとって魅力的な学校環境の整備  
③「遊び」や「体験」を大切にしたい学びの拡充

令和4年2月14日に令和3年度第3回松本市教育総合会議が開かれ、教育長及び教育委員との協議を経て、市長が松本市教育大綱を策定した。

## 学校教育目標

明るい子ども 強い子ども 考える子ども

3つの目指す子どもの姿(寿小が考える資質能力と考える)を、資質能力の点からそれぞれの①②③に整理した

### なかまのわをひろげる子ども

○友とかかわり合いながら力をつけ、共に伸びていく子ども  
①人とかかわるよさがわかり、目を見て気持ちのよい挨拶や返事をしたり、地域の方の顔や名前を覚え、触れ合ったりする。  
②周りに気を配り、相手の立場に立って、考えたり行動したりする。  
③一緒にやってみよう、考えてみようとする。

### 目指す子どもの姿

#### こころとからだをきたえる子ども

○粘り強く追究し、確かな力をつけていく子ども  
①健康のよさ、ねばり強く取り組むよさを知り、挑戦する。  
②自分で判断したり、決めたりする。  
③苦手なことにチャレンジしたり、得意なことをさらに伸ばしたりしようとする。

#### 自ら考え、人・もの・ことにはたらきかける子ども

○人・もの・こととつながる中で、考え、はたらきかける子ども  
①聞く力、考えをもつ力、考えを比べる力、表現する力を身につける。  
②考えや思い、願いを「わたしのことば」で表現する。  
③人・もの・こととつながって考えようとしたり、身につけた力を使ってさらに人・もの・こととつながっていきようとしたりする。

「あいことば」の位置づけ  
①子どもと子どもが、子どもと教師が、子どもと地域・保護者が、学校と地域・保護者が掛け合う言葉として  
②仲間の輪をひろげる子ども、心と体を鍛える子ども、自ら考え、人・もの・ことに働きかける子どもになっていくために、まず身につけたい力(一歩踏み出す力)として  
↳自ら考えて目標を立て、振り返りながら責任を持って行動する力(agency)を発揮する第一歩とも考える  
寿小のあいことばは、令和4年度の重点と位置付けられる

## 寿小のあいことば さあ、やってみよう

### 学びの柱 人・もの・こととつながる学び

「人・もの・こととつながる学び」を柱にした学校づくりを行う

- 「わたしのことば」を紡ぎだす授業  
そのために何をするのか  
→  
・主体的・対話的で深い学びを視点に、寿学習スタイルによる授業の積み重ねに取り組む  
・考え、表現するための「聞く力」「ことばの力」を身につけるための場面設定や考えを整理するための思考ツールの活用に取り組む  
※まず「聞く」こと。聞くためには相手の言っていることを理解するための「ことばの力」(言語事項)、整理して理解する「聞く力」を身につけたい  
次に「考える」こと。考えを整理するために思考ツールを活用する。思考ツールは、教科書でも積極的に取り入れられている。  
・ICTを効果的に使用した授業実践の継続、ICT活用技能の整理。  
・メディアリテラシーの力を身につける授業の実践。  
※必要な情報を取り入れる、わたしのことばを表現する手段として、ICTを活用する力を育みたい。
- 研究テーマ「人・もの・こととつながる中で、自ら問いや願いをもち、わたしのことばを表現していく子ども」(案)  
→研究部より説明あり

◆明日も来なくなる楽しい学校  
・互いの違いを認め合い、困りを伝えたり受容したりする居心地の良い学級づくり  
・あいさつの促進  
・道徳・人権教育の充実  
・児童会活動の推進・支援(自治的活動・試行錯誤して取り組む活動・異年齢児童の協力「寿小学校なかよし宣言」の実行)

◆「わたしのことば」を紡ぎだす授業  
・主体的・対話的で深い学びを視点に、寿学習スタイルによる授業の積み重ね  
・考え、表現するための「聞く力」「ことばの力」を身につけるための場面設定や考えを整理するための思考ツールの活用  
・ICTを効果的に使用した授業実践の継続、ICT活用技能の整理  
・メディアリテラシーの力を身につける授業の実践。  
・研究テーマ「人・もの・こととつながる中で、自ら問いや願いをもち、わたしのことばを表現していく子ども」

◆開かれた教育課程  
・知恵を出し合い、工夫して創る寿小のカリキュラム  
・新たなニーズへの対応  
・プロジェクトによる振り返りと見直し

◆個に応じた支援  
・授業のユニバーサルデザイン化  
・個別懇談やいじめ調査等、相談する機会の設定  
・QUやCRT等の検査から客観的な把握  
・自立支援教員や子どもと親の相談員、スクールカウンセラー等の配置と活用  
・通級指導教室や相談室等、様々な学びの場の提供  
・外部専門機関との連携

◆学び続ける教職員集団  
・学校づくり、授業づくりのための研究会、研修会の実施

◆安全・安心・健康な学校  
・ことぶきタイム(マラソン・コグトレ等)の推進  
・健康教育、保健・安全指導の充実  
・新型コロナウイルス感染防止の対策と学びを止めない工夫  
・危機管理マニュアルの整備、訓練の実施

学校づくりの柱の一つとして、職員の研修を「学び続ける教職員集団」として、位置付けた。私たちが取り組む黄色枠内の実践力を高めるために、研修係、研究部会等と連携を図り、研修会を計画していく

### 地域・家庭等との連携協働

◇家庭との報・連・相  
・家庭と「共に育てる」姿勢(子どもの生活リズムの確立)  
・家庭への情報発信の充実(各種のおたより、メール配信、学校HP)  
・PTA活動の支援

◇地域に開かれた学校  
・コミュニティスクールの活動の充実  
・「子どもは寿の宝」と取り組んでくださる地域の教育力の活用(登下校の見守り、各種学習支援、にこにこルーム等)  
・学校から地域に貢献できる取組の実施  
・幼保・小・中の連携推進